

問1 「ツバメと雨の言い伝え」では、ツバメがどのように飛んだときに雨が降ると言われていますか。

問2 台風は災害をもたらすだけでなく、大雨を降らせることで、私たちの生活にどのような良い影響を与えることがありますか。

問3 空に雲がまったく見当たらないときの「雲の量」は、どのように表しますか。

問4 空全体を10としたとき、天気が「晴れ」になるのは、雲の量がどの範囲のときですか。

問5 日本のはるか南の海上で発生し、北へ向かって進むことが多い、強い風や短い時間の大雨をもたらす気象現象は何ですか。

問6 台風のまわりをふく風は、どのような形の流れになっていますか。

問7 台風の目の部分では、天気や風の様子はどのようになっていることが多いですか。

問8 台風が近づいて強い風や大雨になると、どのようなことが起こるおそれがありますか。

問9 気象衛星の画像は、どこからの情報をもとにして、何を表したのですか。

問10 空全体を10としたときに、空に見えている雲の割合を表したものを何といいますか。

問11 夕焼けが見えると、次の日の天気はどのようになると言われていますか。

問12 台風の強い風で木がたおれたり、大雨でこう水が起きたりして、人々の生活に大きな被害が出ることを何といいますか。

問13 空全体を見わたしたときに、雲が空をおおっている割合のことを何といいますか。

問14 「わた雲」とも呼ばれる積雲は、どのような天気の日によく見られる雲ですか。

問15 「夕焼けが見えると、明日の天気は晴れになる」というように、昔からの言い伝えによって天気を予想することを何といいますか。

問16 台風による災害のうち、台風がもたらす「大雨」が原因で起きるものはどれですか。

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 低く飛ぶ	この言い伝えでは、ツバメが低く飛ぶことが雨が降る前ぶれであるとされています。
問2	答え 水不足が解消されること	台風による大雨は、ダムなどの貯水量を増やすことで、水不足を解消することがあります。
問3	答え 0	雲がまったくないときの雲の量は0と表します。反対に、空全体に雲があるときは10と表します。
問4	答え 0から8のとき	空全体を10としたとき、雲の量が0から8のときが「晴れ」になります。9や10のときは「くもり」になります。
問5	答え 台風	日本のはるか南の海上で発生して北へ進み、強い風や大雨をもたらす気象現象を台風といいます。
問6	答え うず状	台風のまわりでは、うず状の風がふいています。
問7	答え 風も雨もやんでいることが多い	台風の目は台風の中心部分にあり、そこでは風も雨もやんでいることが多いという特徴があります。
問8	答え 強い風や大雨によって、災害が起こる。	台風による強い風や大雨は、私たちの暮らしに様々な災害をもたらす原因になります。
問9	答え 宇宙にある気象衛星からの情報をもとに、雲の様子を表したもの	気象衛星の画像は、宇宙にある気象衛星からの情報をもとにして、雲の様子を表した画像です。
問10	答え 雲の量	空全体を10としたときの、空に見られる雲の割合のことを「雲の量」といいます。
問11	答え 晴れる	夕焼けが見えると、次の日は晴れるという言い伝えがあります。
問12	答え 台風による災害	台風の強風や大雨によって、建物や自然、人々の生活に被害が出ることを「台風による災害」といいます。
問13	答え 雲の量	空全体に対して雲がどれだけの割合を占めているかを「雲の量」と呼びます。
問14	答え 晴れた日	積雲は、天気の良い晴れた日によく現れる特徴があります。
問15	答え 天気のことわざ	昔からの言い伝えによって天気を予想する方法を「天気のことわざ」といいます。
問16	答え がけくずれやこう水	台風の大雨によって、がけくずれやこう水が起きます。鉄とうや木がたおれるのは強風が原因です。